

# 令和5年度(2023年度)第1回越谷市青少年問題協議会 会議結果報告

- 1 開催日 令和5年(2023年)7月28日(金)
- 2 場所 中央市民会館4階 第15～18会議室
- 3 開閉会 開会 午後2時00分 閉会 午後4時00分
- 4 出席委員 28名  
田中 崇 委員、齋藤 宏之 委員、池田 靖 委員、永瀬 一広 委員、  
佐藤 泰弘 委員、佐々木 清 委員、原田 肇子 委員、岩坂 守 委員、  
安嶋 好美 委員、浅井 華奈子 委員、臼倉 誉治 委員、五味田 真紀子 委員、  
安川 沙樹 委員、富澤 勤 委員、須賀 恒雄 委員、中村 達興 委員、  
大久保 亨 委員、野上 ひとみ 委員、大野 聡史 委員、井橋 吉一 委員、  
松澤 幸子 委員、式場 翼男 委員、上原 美子 委員、杉村 友子 委員、  
西島 節子 委員、金森 幸 委員、秋山 信子 委員、佐藤 満里子 委員
- 5 欠席委員 2名  
宮地 さつき 委員、鎌倉 賢哉 委員
- 6 傍聴者 傍聴申請なし
- 7 事務局出席者  
子ども家庭部長 富岡 章  
子ども家庭部青少年課長 小澤 正和  
子ども家庭部青少年課副課長 備藤 淳  
子ども家庭部青少年課主任 落合 亜耶  
子ども家庭部青少年課主事 立川 裕佳

会議次第	
令和5年度(2023年度)第1回越谷市青少年問題協議会	
1	開 会
2	自己紹介
3	会長の選出及び会長あいさつ
4	副会長の選出及び副会長あいさつ
5	幹事の任命について
6	報告事項 (1) 越谷市青少年問題協議会の概要について (2) 令和3年度・令和4年度青少年問題協議会の結果について
7	協議事項 (1) 令和5年度協議事項(テーマ)の選定について
8	そ の 他
9	閉 会

## 【会議内容】

### 1 開 会 小澤子ども家庭部青少年課長（司会）

### 2 自己紹介

### 3 会長の選出及び会長あいさつ

- 司会 越谷市青少年問題協議会設置条例第3条第2項の規定に基づき委員に諮る。
- 委員 事務局に一任する、との声あり。
- 事務局 会長に上原美子委員を提案。
- 委員 異議なしの声あり。  
会長に上原委員が選出。
- 会長 会長あいさつ

### 4 副会長の選出及び副会長あいさつ（議長：上原会長）

- 議長 越谷市青少年問題協議会設置条例第3条第2項の規定に基づき委員に諮る。
- 委員 事務局に一任する、との声あり。
- 事務局 副会長に五味田真紀子委員及び宮地さつき委員を提案。
- 委員 異議なしの声あり。  
副会長に五味田委員及び宮地委員が選出。
- 副会長 副会長あいさつ

### 5 幹事の任命について

- 議長 事務局に説明を求める。
- 事務局 越谷市青少年問題協議会設置条例第8条第2項の規定に基づき幹事に佐藤泰弘委員が任命されたことを報告。

### 6 報告事項

- 議長 報告事項（1）（2）について、一括して事務局に説明を求める。

#### （1）越谷市青少年問題協議会の概要について

- 事務局 資料に基づき説明。  
本会は例年、年度ごとに協議するテーマを決め、委員の方々に意見交換や情報共有をしている。  
なお、テーマに関して一定の結論を出すものではなく、関係団体相互の連絡調整に重点をおいた会議運営を行うものとなる。

#### （2）令和3年度・令和4年度青少年問題協議会の結果について

- 事務局 資料に基づき説明。
- 議長 委員に意見等を求める。
- 委員 意見等なし。

## 7 協議事項

### (1) 令和5年度協議事項(テーマ)の選定について

○議長 事務局に事務局(案)を含めて説明を求める。

○事務局 事務局(案)として、「こどもの居場所づくり」を提案する。

昨今、地域とのつながりの希薄化や核家族化、共働き家庭の増加などにより、こども・若者が地域コミュニティの中で育つことが困難になっており、こども・若者が安心して過ごせる居場所が求められている。

また、令和5年4月から創設されたこども家庭庁の設置法においても、「地域におけるこどもの適切な遊び及び生活の場の確保に関すること」を規定しており、今後、こどもの居場所づくりについて注目されていくことが予想される。

については、本テーマを越谷市青少年問題協議会の議題とし、課題や各機関で行われている取り組みについて情報共有を図ることで青少年への支援につなげたいと考えている。

資料2に基づき事務局(案)について説明。

こどもの居場所づくりに関する調査研究報告書(令和5年3月 内閣官房こども家庭庁設立準備室)によると、家や学校以外に居場所がほしいと回答したこども・若者のうち、家や学校以外に「居場所がない」こども・若者が一定数存在する。

また、居場所が物理的にどのような場所かについては、年齢区分を問わず「祖父母・親戚の家や友達の家」という回答が最も高い割合である。また、年齢層が上がるとオンライン空間を居場所と感じる回答も高い割合になっている。居場所とは、人それぞれで感じ方は異なるが、居場所を必要とするこどもが、適切な居場所に結びつくことが大切である。

また、こども家庭庁としても、「全てのこどもの健やかな成長、Well-beingの向上」を今後のこども政策の基本理念としており、居場所の位置づけや理念等の調査研究を進めており、今後、新たな動きがあることが予想される。社会的にもこどもの居場所について注目され始めていることに加え、本会の委員は、地域でこども・若者と接する機会がある方も多いため、協議事項として「こどもの居場所づくり」を選定し、行政や地域、教育現場等での取り組みについて、情報共有及び協議していきたいと考える。

○議長 委員が考えるこどもの居場所について、日頃の活動の中で考えること、もしくは、活動の紹介をしてほしい。

○委員 オンライン空間が居場所になることについては、市内学校でもネットトラブルが増加しており、教育委員会としても取り組みを強化している。

昨今はネット利用者が低年齢化しており、また閉鎖的で実態が見えにくい。学校で問題が発生したら、担任を中心とし、人との適切なつながりの持ち方を指導している。また、こどもの居場所について様々な立場の意見を聞くことは、今後の教育に活かすことができ、有意義と考える。

- 委員 こどもたちが多様化しており、集団生活を生きづらいつと感じるこどもが増えている。そのため、学校がこどもにとって良い場所になるよう職員一同で話し合っている。その取り組みの中で、こどもたちにとっては、自分を認めてもらえたり、褒めてもらえたりする場所は、居心地が良い傾向にあることが分かった。ものの見方を変えてこどもたちと関わること（リフレーミング）で、学校が楽しいと思えるよう工夫している。また、教室に通うのが難しいこどもには、保健室や放課後の個別対応、オンラインなど様々な方法で人とのつながりを持てるようにしている。
- 委員 学校はこどもが過ごすだけでなく、若者も働く場所であり、自己有用感や自尊感情をお互いに高め合うことで、やりがいや貢献したいという思いが醸成される。また、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、学校行事等が通常に戻りつつあるが、実態はコロナ前で止まっていて、どう稼働させていったら良いか悩むこどもが多いように感じる。社会がこどもに合わせて変わっていくことが、安心につながるのではないかと。
- 委員 これまで新型コロナウイルス感染症対策としてICT教育が活用され、対面の学校生活が求められなかった。そのため、5類に移行したからといって、こどもに周りとの会話や協調を促しても難しい状況である。近年は、対面の教育活動を臆するこどもが増えている。また、教員も実際の生徒とのふれあいを難しいと感じ、離職者が増えている。今後は対面の居場所づくりが望ましい。
- 委員 スポーツで新たな居場所を作ることが活動の一つである。その中で、こどもが多様化していることは実感している。褒めて育て、楽しく活動する一方で、ルールやマナーなどの厳しさを教えることの難しさを感じている。
- 委員 こどもたちは褒められると素直に喜び、成長する。間違えたことは厳しく伝えるが、褒めて認め、育てている。
- 委員 自身が関わる活動は、参加すれば仲間がいて楽しいと感じるようで、居場所としての役割を担っていると感じる。また、居場所づくりには、物理的な場所や運営上の問題、スタッフ、サポート体制の充実などの支援が必要だと感じる。
- 委員 自身が関わる活動には、自らの意思で参加したこどもや保護者の勧めで参加しているこどもがいる。関わりの中で自ら居場所を見つけようとしているこどもが多いと感じる。活動に参加できるこどもは良いが、居場所を見つけられないこどもに教えてあげることが大切である。現在は、スタッフ数に余裕があるため、一人ひとりから話を聞きやすい。こどもたちは自分を認めてほしいと思って参加していると思う。個性を認め、伸ばしていきたい。
- 委員 自身が関わる活動の周知をしているが、一人で参加しようとするこどもはあまりいない。また、こども同士の横のつながりもあまりないように感じる。こどもの居場所になりたいと思い、活動を続けている。
- 委員 こどもたちが多様化しているため、指導者を育てる指導も必要と感じる。
- 委員 こどもにスマホを持たせているが、ネットトラブルに巻き込まれないよう、日頃からこどもと話し合い、ルールを決めて使わせている。

- 委員 放課後子ども教室では、参加者から回数を増やしてほしいという声がある。こどもたちは安心して過ごせて、人と人との結びつきのある居場所を求めているように感じる。大人がコーディネートして、居場所を作っていくことが大切だと感じる。
- 委員 地域全体でこどもを育てていかなければならないと感じるが、保護者の協力も得ないと難しいように感じる。
- 委員 こどもたちには、色々な居場所があることが大切だと感じる。それは場所に限らず、ゲーム等も含まれる。また、以前公園で、時折周りのこどもに暴力をしてしまうこどもがいたが、その子を怒らず、じっくり話したことで、少しずつ気持ちを落ち着かせていったことがあった。遊びを通じてこどもの心の声が聞こえることがある。
- 委員 放課後子ども教室の活動の中で、多様なこどもたちがいることは実感している。スタッフが準備した活動をやりたくないというこどももいる。チームでなければできない活動は、本人とコミュニケーションをとって参加するかどうか決めている。個別の活動時は、その子の自主性を尊重したり、一人でいたいこどもの話を聞くことも大切だと感じている。
- 委員 放課後子ども教室では、こどもたちは好きなことをして自由に過ごしている。その際、こどもたちの表情を見ている。元気がないと感じ、声をかけてみると、何があったか話してくれることがある。活動中は危険なこと以外は怒らないようにしているため、こどもたちも居心地がいいのだと感じる。また、大人と一緒に遊んでくれることも楽しくて嬉しいのではないかと感じる。
- 委員 以前、自身が関わっていた活動では、新型コロナウイルス感染症拡大前は、みんなで夕食を食べ、その後は異学年のこどもたちで遊んでいた。しかし、感染症の拡大により、みんなで食べる夕食からお弁当の配付に変えたところ、以前のような異学年での交流がなくなってしまった。
- 委員 こどもは心の声を聞いてもらい、心を落ち着かせられる居場所を求めていると感じる。以前、行動が気になるこどもが外で一人で過ごしていたが、どのように声掛けしたら良かったのか悩んだことがあった。
- 委員 こどもは外で色々なことがあっても、自分を大切に思ってくれる人がいることで安心して過ごすことができると感じる。
- 委員 自身が関わる活動は、資料2のこどもの居場所づくりで大切にしたい視点の中の「やってみたい」に当てはまる。こどもが普段できないことを体験させてあげる活動をしている。時代とともにこどもたちの考え方が多様化してきたが、新しいことに挑戦しやすい時代でもあるので、こどもたちのために引き続き体験活動を取り組んでいきたい。
- 委員 子ども会が減少している。こどもの元気な姿は地域の大人を元気にする。地域ぐるみで自治会活動を進めていきたい。
- 委員 以前は近所のお兄ちゃんお姉ちゃんと遊んだりしていたが、最近のこどもは塾や習い事で忙しいように感じる。外遊びの時は、ボール遊び禁止の公園も多く、かわいそうを感じる。

- 委員      こどもの居場所づくりといっても一人ひとり個性が異なるので、その子の個性をどう見て活かし、育むか、その目を持つ大人が必要だと感じる。まずは、大人が変わっていく必要がある。
- 委員      学校や教育委員会に協力いただき、青少年に対する意識調査を行っている。その中で、「誰にも言えないくらい困ったことがあるか」という質問に対し、2割程度が「ある」と回答していたことから、居場所づくりの重要性を認識している。また、こころの健康支援室では、若年者の自殺やひきこもり対策として悩みを相談できる場所としての活動を定期的に行っている。
- 委員      家庭や学校が安心できる居場所になることが大事であり、問題があれば解決する努力が必要と感じる。家庭や学校に居場所がないこどもの受け皿になっているのが、ト一横などではないかと思う。犯罪の温床になってしまう可能性があるが、同じ悩みを持つ子と出会えたり、やっと自分の居場所を見つけたという子もいる。そのため、安全な居場所で、生きがいややりがいを見つげられる居場所があってほしい。
- 委員      家庭や本人に何かしらの課題のある青少年と接することが多い。SNS やト一横は共通の話題があって共感できる場所だと思うが、安全とは言えない点が問題である。そういった場所に行ってしまうこどもは、家庭や学校に居場所が見つけられず、地域の活動にも参加していないことが多い。
- 議長      本日挙げられた意見等については、それぞれの団体等に持ち帰り、青少年への支援につなげていただきたい。  
今後の協議テーマについては、本日の会議内容をもとに正副会長に一任していただくことでよろしいか。
- 委員      異議無し。
- 議長      本日の協議事項は終了した。ここで議長を降ろさせていただく。

## 8 その他

- 司会      委員にその他の意見等あるか確認
- 委員      意見等無し。
- 司会      事務局担当に連絡事項を求める。
- 事務局      第2回会議は1月下旬から2月上旬頃開催を予定している。  
開催については、後日改めて通知する。

## 9 閉 会 五味田副会長